

## 1. ラグビーW杯での日本の戦い

年齢を重ねると勝負事には気が弱くなります。でも関心はある。「勝っているか」と観たいものの「でも負けていたら」とドキドキハラハラと心臓の鼓動が波打ち「観れない！」となる。

13日(日)に横浜国際総合競技場で開催されたラグビー日本代表の対スコットランド戦。裏番組を観つつ、時折チャンネルを変えて「今どうなっている？」とTVに釘付けとなりました。後半の10分位に観た時、「28対7で日本が勝っている！これでゆっくりと観れるぞ」と決め込んだ瞬間、立て続けにトライを取られ、28対21に。天に祈りつつ、「私が観ていたので点を取られた」とまた裏番組へチャンネル替え。気が気でない2時間を過ごしてしまいました。

14日(月)の新聞にこうありました。ヘッドコーチは語ります。「日本人は正しい理論、考え方を教えれば地道に実践する。それを宮崎合宿などで徹底してきた。だから4連勝も出来ると信じていた」。**指揮官が勝利を信じていたからこそ、4連勝したのです。納得すれば、徹底的にやり切るというのは日本人の優れた特色の1つです。**その一方でまた、納得はしていないが上司の命令だからと従うという例もあります。これも日本人です。しかし、**完全に納得した上で厳しい壁を乗り越えた方が遙かに達成感を味わうことができます。**

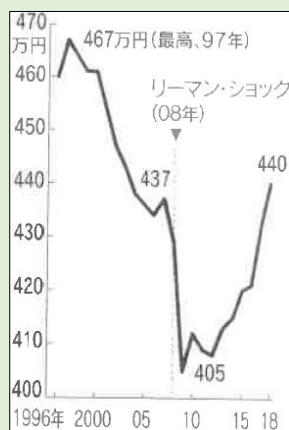
選手たちは台風19号でグラウンドに水たまりができていたのを、関係者がスポンジで吸い取ってくれたと感謝の念を語っていました。**感謝の気持ちを素直に言えるのも日本人。**試合終了後のインタビューで厳つい顔で笑わないで有名な稲垣啓太選手。「台風で被災した方々にラグビーで元気を取り戻していただきたい。そういう気持ちを持って試合に取り組みました」。でも笑っていません(笑)。

ジョセフヘッドコーチも試合前のミーティングで「被災者の為に」と話しかけたとのこと。正に**“one-for-all, all-for-one”の崇高な精神**が13日のグラウンドに咲き誇ったのでしょ。

W杯、1回目から7回目までは1勝しかできなかった日本。前回のイングランド大会で3勝、そして今回は4勝とグループでトップの成績。**初が大好きな日本人。**8強止まりではなく、優勝杯獲得を目指して頑張っ欲しいものです。

## 2. 平均給与はリーマン・ショック超え

下表は日本経済新聞9月28日付朝刊に掲載された記事にあったものです。見出しは「**民間給与とリーマン前超え-昨年440万円、6年連続増-**」でした。リーマンショックは2008年(平成20年)に発生した米国の金融会社リーマンブラザーズが経営破綻し、全地球的に不況に陥った大事件でした。



その後、民主党政権を経て安倍政権が誕生し、日本経済は緩やかな回復を辿ってきました。政府の出す賃金統計は多々ありますが、左表は国税庁の民間給与実態統計調査によるものです。国税庁ですから、源泉徴収の対象者が基本です。正規と非正規の労働者の二つの区分が混ざっています。よって非正規割合が高くなると平均給与額も低くなります。

**正規の平均給与は503万円**で非正規の179万円の2.8倍でした。また、**男性は545万円、女性は過去最高の293万円**でした。なお、**平均給与の最高は1997年(平成9年)の467万円**でした。

来年4月1日より同一労働同一賃金の制度が施行されます(中小企業は1年後)。**職務内容、責任の程度、配置変更の範囲等を考慮した不合理でない賃金制度設計**を今から考えていきましょう。

## 3. セブン&アイグループが最高益でもリストラ

CVSの雄、セブンイレブンを抱えるセブン&アイグループが傘下の百貨店を中心に店舗の閉鎖と人員削減を発表しました。百貨店は西武とそごうの2系統を抱えていますが、計5店を閉鎖します。また元は親会社であったイトーヨーカドーも店舗閉鎖や一部店舗の分社化を行うようです。こうした対策で人員を3000人削減するのです。

「利益が減少したのか？」と思うかも知れませんが、**グループ全体では増益**なのです。しかし最近ではセブンの24時間営業問題に端を発して、7-11の不採算店対策も課題として浮上してきました。セブンもかつての様な**躍動感がなくなってきました。先手必勝で、現況に対する危機感があっと驚くような経営戦略を打ち出した**のでしょ。